

市長記者会見

令和4年11月4日（金）

（山陰ケーブルビジョン）初めに、上定市長から説明をよろしくお願ひします。

（上定市長）今日の記者会見もよろしくお願ひいたします。今日は4項目についてご説明します。

1項目目、「まちづくりを考える市民シンポジウム」の開催についてです。「松江らしいライフスタイルと土地利用を考える」という表題で11月13日に松江テルサのテルサホールで開催します。このシンポジウムでは、土地利用制度という今まで皆さんになじみが薄かったと思われる制度について、広く市民の皆さんと一緒に考えるシンポジウムとしたいと考えています。まず、現在進めている土地利用制度の考え方について説明します。現在、松江市には都市計画が適用されている区域があります。松江圏都市計画区域に市街化区域部分と市街化調整区域という区域があり、宍道地区には別に、宍道都市計画区域というのがあり、用途地域という指定があります。この市街化区域は、市域の一部に市街化を優先的に図る区域として設定されたもの、そして、市街化調整区域は、新たな建物の建築や開発などを制限する、制限がかかっている地域ということになります。その市街化区域の中には用途地域というものが設定されており、大きく分けると、住居系、商業系、工業系の3種類があり、その地域ごとに土地の利用の仕方が決められています。この制度が昭和45年から今まで運用されてきており、その評価として、乱開発を防ぎ、この松江市域において秩序のあるバランスの取れた発展を目指すためのコントロールという役割を果たしてきたと考えています。計画的に市街地を形成するための制度設計になっていた、都市としての秩序のある発展を助けてきた制度であったという言い方ができるかと思います。一方で、課題として、昭和45年から地域の環境というのが大きく変わってまいりました。人口減少・高齢化が進展している状況があります。地域が衰退していくことが想定しない制度であるために、最適なものは何なのかということを考える時期に来ていると考えています。また、商業や住宅が自由度高く立地でき、創意工夫が生かせるような土地の利用になっていく必要があるとも認識しています。それがひいては地域の経済活動の促進にもつながっていくものと考え、これらの課題を念頭に置いた上で、新しい時代にマッチし、アフターコロナを見据えた経済展開の中で土地利用制度も考えていかなければならぬと認識しています。今回、3月に「MATSUE DREAMS 2030」と銘打ち、松江市の総合計画を策定いたしました。その中で、将来のまちの形、これは土地利用制度を含むのですが、どういった形にしていくのが妥当なのかということを、市民の皆さんと、また審議会の中で議論をさせていただきました。それぞれの地域にある拠点となる市街地を一つにぎゅっとまとめるのではなく、それぞれを生かしながら、それらをネットワークでつなげていく「コンパクト・プラス・ネットワーク」を目指していくことを総合計画の中には織り込んでいます。そして、このコンパクト・プラス・ネットワークを目指していくに当たって、土地の利用制度がまさにこのまちの形をつくっていく手段になるものと位置づけています。そして、土地利用制度を検討するに当たっては、これまでの制度の検証し、議論を重ねた上で、令和4年度末を目指して考え方の整理を行ってまいります。その一助とすべく、今回シンポジウムを開催します。当日はYouTubeでライブ配信も行います。内容は、私が最初、少し概括的な話をさせていただき、東京都立大学都市環境科学研究科の饗庭教授にご講演いただきます。饗庭先生は、他県の都市計画区域を対象とした研究等もなさっており、都市計画とそのデザイン、そのために市民参加がどうあるべきかといったことについて研究していらっしゃいます。その後、暮らしやすさ、まちづくりの専門家の方と私も入りパネルディスカッションを行

い、今後の松江のまちづくりを考えていくイベントとしてまいります。ぜひ、ご参加いただければと思います。

2つ目が、「第15回松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト」のアイデア募集です。このビジネスプランコンテストは2008年度からスタートし、今回15回目となります。松江はRubyのまちとして著名であり、今もそれで売り込みをしているところです。Rubyとは、プログラミング言語として、アプリケーションを作るために用いる一つの材料です。これが非常に使い勝手がよく、特に資金等がないスタートアップの企業がオープンソースの形でそれを利用してアプリケーションを作ることができる仕組みになっています。例えば皆さんよく御存じの「hulu」という動画配信サービスや、「cookpad」という料理レシピサイト、「価格.com」、こういったアプリケーションはこのRubyからできているということはあまり知られていないかもしれません。そのRubyの生みの親、開発者のまつもとゆきひろさんは松江市在住の名誉市民でいらっしゃいます。Rubyの特徴は、初心者にも非常に分かりやすく優しい、色々なアプリケーションに使いやすく汎用性が高いということ、そしてまた、簡単に開発できるということで、開発効率が非常に高いといった特徴があります。松江市は、このRubyを起点として「Ruby City MATSUEプロジェクト」を実施しており、今回のビジネスプランのコンテストについてもその一環となります。過去14回の中で既に事業化されているプランもあります。例えば2015年の学生部門で奨励賞を取られた方は、売却先を比較検討できる不動産の売却プラットフォームを作られました。また、2021年にビジネス活用部門で最優秀賞を取られた方、会社を立ち上げ、Rubyを活用して食品衛生管理を支援するシステムを構築されています。このように実際にこのプランコンテストから羽ばたかれて事業化され、実際にビジネスを回している会社も非常に増えています。今回、まさにあなたのアイデアを募集します。Rubyに代表されるオープンソースソフトウェアを活用したビジネスプランを募集します。学生部門とビジネス活用部門を設け、締切りは1月10日です。コンテストの流れは、書面の1次審査を経て、来年の2月18日に最終審査を行います。そこにはまつもとゆきひろさんもおいでになり、特別講演会を行い、また、私も審査員として参加します。今、松江市では、MATSUE起業エコシステムという産官学金が連携してビジネスの事業化を支援する仕組みを設けており、受賞者にはそこでサポートも行います。詳しくはまつえ産業支援センターのほうまでお問合せをいただければと思います。ご応募お待ちしております。よろしくお願ひいたします。

3つ目、「第44回目まつえレディースハーフマラソン」のご案内です。ここ数年はコロナのために開催できておらず、実に4年ぶりの開催となります。このまつえレディースハーフマラソンは、日本学生女子ハーフマラソン選手権大会と、来年開催されるワールドユニバーシティゲームズの日本代表選考の競技会を兼ねております。来年の3月19日に松江城の大手前からのスタートで開催する予定です。4つの種目に分かれており、競技会大会としては女性のみのハーフマラソン、それ以外にも10キロ、2.6キロ、ちびっ子の1.0キロがございます。インターネットのマラソン等の申込サイト、RUNNETからの申込みのみとなります。申込みの期間が11月18日からとなっておりますので、奮ってご応募ください。

最後に、「松江・森の演劇祭」が5年ぶりに開催されます。今回、第7回目となります松江・森の演劇祭、通常は3年ごとの開催ですが、新型コロナウイルスの影響で5年ぶりの開催となっています。今回の演劇祭にはブルガリア、カナダ、フランス、日本の4か国から10の団体が出演します。期間は、11月5日から13日まで、会場は、八雲町の森の演劇ゾーン、これはしいの実シアター、平原会館、あと大型テント、かやぶき交流館といった周辺施設となっています。演劇だけではなく、軽食、お菓子、クラフトが出店するかやぶきマルシェ、広島、大阪から人気店が集結す

るかやぶきポップアップショップ、たき火交流というのも楽しめるイベントとなっています。少し詳しく申し上げますと、かやぶきマルシェは、飲食とクラフト、工芸など44店舗が出店する予定です。例えばハ雲町で取れたイノシシの肉を使ったコロッケ、地元の食材を使ったミルクジャムなどの人気店が大集合します。かやぶきポップアップショップは、広島からグラノーラのお店と木のおもちゃを扱っているお店が、大阪からは、「旅するcarbon」と銘打ち、革製品、ガラス製品などが集まるイベントとなっています。そして、YouTubeでのライブ配信を「TSK YouTube課」というTSKさんのサイトにおいて行います。そしてもう一つ、市役所にカナダの劇団コーパスが扮する羊が登場します。11月7日に松江市役所で羊のライブパフォーマンスがありますので、もし近隣に立ち寄る予定がある方はぜひのぞいていただければと思います。ちなみに羊が市役所にやってくるのは平成28年以来の6年ぶりですので、お楽しみにしていただければと思います。さらに演劇祭への、小・中学生の鑑賞を募集し、市内の小・中学生600人が参加します。一流の芸術をこの松江の地で実際に味わう、アートのまちを目指していますので、松江の子どもたちにもぜひこの貴重な場に触れる機会を設けたいという思いで企画しております。そして、この演劇祭自体は1月13日までですがスピノオフイベントが、14日に、しいの実シアターでシンポジウムを開催します。パリの大学の教授にも来ていただき、政策研究大学院大学名誉教授の垣内先生のコーディネートで今後の劇場と地域の関係について議論するラウンドテーブルイベントです。こちらもぜひご参加ください。

私のほうからは以上となります。ご質問等、よろしくお願ひいたします。

(山陰ケーブルビジョン)では、各社、質問があればお願ひします。

(読売新聞)レディースハーフマラソンの開催の発表は今日が最初ということですか。

(上定市長)はい。おっしゃる通りです。

(読売新聞)これを4年ぶりに開催することで、まちにどのような活気が生まれればとお考えでしょうか。

(上定市長)12月にはまた松江城マラソンも予定しています。マラソンイベントは多数の方が応援にも訪れていただけますし、地域の経済に対する波及効果はもちろん高いものがあると考えています。また、レディースマラソンは、今回44回大会ということで、非常に歴史のある大会であり、選手権大会の予選も兼ねていますので、何とか開催できないかということで、今回4年ぶりにやっと開催できるようになりました。たくさんの選手の方にももちろん松江の地を走っていただき、地域としてもたくさんの方をお迎えし、おもてなしをし、というような好循環が生み出せるのではないかと期待しています。

(山陰中央新報)新型コロナウイルスの感染者が増えている状況にあると思います。現状の分析と今後の対策等あれば教えていただけますか。

(上定市長)感染状況から少し触れると、10月は連日2桁の感染が確認され、1日当たり43人の感染が確認されています。一番多いのは30歳代、次いで10歳代、40歳代となっています。また、今週、月曜日が139人、火曜日が127人ということで、100人を超える日が月、火と続いています。これは松江市だけではなくて全国的にこのような傾向が見られるということも確認しています。現在、行動制限もなく、この秋の行楽シーズンで地域においても色々なイベントが開催されています。地元の方ももちろん、旅行者の方も松江を訪れていただき、人の流れ、行動の活発化がその要因であると見ております。ただ、ある程度そういった予想はできたところもあり、コロナが現時点で直ちに終息するというのは考えにくいです、やはり長く付き合っていくことまで含めて経済活動と感染予防の両立を図っていかなければならないという認識に変わりはありません。また、冬場に入りますので、インフルエン

ザ等の感染症もまた懸念されます。松江市からはこれまでワクチン接種についてのお願いですとか、接種体制についても皆さんの希望がかなう形にできるだけきめ細やかに設定しておりますので、ワクチンの接種を希望される方はできるだけ早めに受けただければと思いますし、日頃の感染予防対策については、今後もマスク着用、手洗い等の基本的な感染対策の励行というのは続けていただきたいと考えているところです。

(TSK) まつえレディースハーフマラソンについてですが、どのくらいの人に集まって欲しいかというところと、どんな大会になって欲しいかをお願いします。

(上定市長) 先般、鑿行列がございました。レディースマラソンのスタートと同じ場所、松江城の大手前のでありましたが、たくさんの人に訪れていただき、まちのにぎわいが感じられるようなイベントとなりました。コロナの感染防止には当然配慮しながら、多くの方に松江を訪れていただいて、そしてこの大会自体も天気にも恵まれて有意義なものになればと思っております。松江の地に1度訪れると、風光明媚であり、松江城などに触れていただけると思いますので、これを一つのキーに松江の魅力をさらに高めて発信していくような場にしていきたいと思っております。

(中国新聞) 7日、12日に原子力防災訓練があるかと思います。市長はこれまで不斷の見直しということはずっとおっしゃってこられましたが、改めてどういうところを確認したいかというところを教えてください。

(上定市長) 昨年の4月に市長に就任して以降、大規模な形での訓練は今回が初めてになります。2県6市の合同訓練として、今回、大野地区と八束地区からの広域の避難訓練というのも実施します。その中で、大野地区では本市として初めて自家用車による避難も行いますので、避難の実効性のところが確認できると思います。何らか課題が見えてくれれば、今後改善策を考えていく大きなきっかけになるものと考えています。鹿島地区では避難行動要支援者の方の避難誘導訓練も行う予定で、避難の準備に総体的には時間がかかる要支援者の方の避難ということになりますので、その対応についても確認し、さらなる改善につなげていくプロセスとして有意義なものにしていきたいと考えているところです。

(中国新聞) 7日の要支援者の方々の避難訓練は、市長も現場に行かれることですか。

(上定市長) できるだけ多くの場所を見て、実態を確認した上で私自身も考察を深めたいと思っております。

(島根日日新聞) 避難の実効性に関して、松江市の最初の広域避難訓練で、バスが道を間違ったということがありましたか、その後、対策は取られたのでしょうか。

(上定市長) 私が今何か確認できる資料はありませんが、少なくとも今回、こういった実際の避難を伴う訓練を広域的かつ市民の方にも参加いただいてというのが久しぶりになりますので、具体的にどういう行動を取る必要があるのか、どういう行動を前提として避難を組み立てる必要があるのかということは、県とも膝詰めで検討してきたところです。今回、色々行ったところで見つかる課題についての対処が当然必要になってくると思いますので、それを見た上で次に必要な訓練につなげていくというプロセスをできれば頻度高くやっていきたいと思っていますので、前回の反省も当然生かした形で、今回の避難訓練になっていると認識しています。

(島根日日新聞) 松江市からの自家用車の参加は何台になりますか。

(上定市長) 大野地区から自家用車11台で22人が避難する予定です。

(朝日新聞) 森の演劇祭が5年ぶりの開催ということですが、毎回5年ごとにということですか。

(上定市長) 3年ごとに開催していましたが、コロナの影響で5年ぶりとなっています。森の演劇祭という国際演劇

祭をこの松江の地でやることは、非常に意味のあることで、市民の皆さんにとっても一流の国際的な演劇に触れる機会となりますので、ぜひ足をお運びいただければと思います。また、海外から多くの方がいらっしゃいますので、そういった方が市内で道が分からぬということをお尋ねされることもあると思います。松江は国際文化観光都市であり、今後グローバルに名前を売っていきたいと考えているところです。海外から来られた方が松江で過ごしてすごくよかった、家族も連れてきたいと、友達に伝えたりSNSで発信したいと思えるような、そういった滞在期間にしていただきたいという思いもありますので、市民の皆さんも何とぞご協力のほどをよろしくお願ひいたします。

(山陰中央新報)避難訓練のこと、今回初めて大野地区で自家用車の避難訓練をされるということですが、かねてから住民の避難で課題になっているのは、自家用車で車が殺到することでの渋滞があると思います。今回、1台では渋滞はないと思いますが、その辺の想定とか、車の流し方なども確認されますか。

(上定市長) 今回は、多くの車が殺到する状況にはならないと思いますが、今回が初めて車での避難ということですので、実際に車で避難するに当たって何に心がけなければならないかなど具体的な課題も見えてくると思います。その上で、今後の展開について、これは広域的なものですし、松江市の一存でというわけにはいきませんが、より実効性を高めるために必要な訓練、特に見えてきた課題に対してどのような訓練をすればいいのかというサイクルにはつなげていきたいと思います。ご指摘のとおり、渋滞が巻き起こるという懸念は、当初から想定はしておりますが、検証するまでの限界もありますし、初めての訓練ですので、次の展開についても見据えながら訓練を行いたいと考えています。

(山陰ケーブルビジョン)ほか、よろしいでしょうか。以上で終了します。ありがとうございました。

(上定市長)ありがとうございました。